

町内の  
企業紹介

皆さんのが日々使っているものが、どんな所でどのように作られているのか・・・気になりませんか？  
今月号から、町内にある身近な企業や商店を紹介していきます。

# ヘイコー・パック株式会社



▲インタビューに答える鈴木健夫社長

ヘイコー・パック株式会社は、昭和38年に創業し、昭和55年に現社名に変更して現在の祖母井地内に移りました。業務内容は主に紙ぶくろや包装紙の製造で、卸売り大手商社の受注を一手に引き受けています。

社員は14人、そのうち33人が障害者です。掃除用具を色分けして片付けやすくしたり、「敬愛工房」という施設で研修を行ったりと、鈴木健夫社長は障害者の雇用を積極的に行い、彼らが働きやすい職場づくりを進めています。



▲清掃や整理整頓などの記録(敬愛塾)

「印刷など大型機械を使うため、以前はインクや接着剤、のり、機械油で工場内が汚いのは当たり前」という状況でした。それをなんとかして改善しようと徹底した清掃に取り組んで15年。きれいな環境を整える

会社の信条は「挨拶・後始末・掃除を徹底する」「丁寧で穏やかな生き方の中に、眞の生産性の向上を目指す」です。



## ヘイコー・パック 株式会社

住所 芳賀町祖母井1702  
従業員数 144人  
電話番号 028(677)0214  
※上から2枚目の写真は販売店舗のパッケージプラザ芳賀店



あとは箱に詰めて出荷されたり、パッケージプラザで販売されたりします。



そのまま機械の中で紙が折られて、出口からは手提げ付きの紙ぶくろとなって出てきます。

最後には人の目で見て、不良品がないかなど、しっかりと確認します。



これは手提げの部分を貼り付けていますところ。  
手提げ部分も自動で作られ、機械で1つずつ切って貼り付けていきます。

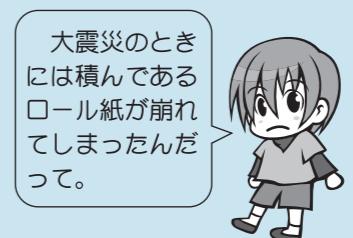


ロールのままで印刷します。  
印刷は1色からフルカラーまで対応できます。

この先の工程は、1つの大きな機械で行われます。

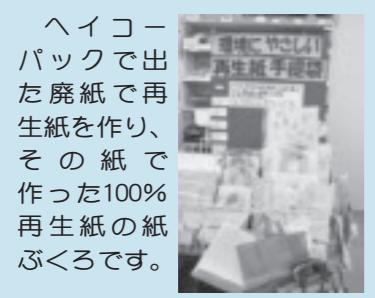


原料となるロール紙です。  
1本が約300~500kgあります。  
1日に20~25トンを使って紙ぶくろや包装紙を生産します。倉庫には約3週間分のロール紙が保管されています。



紙ぶくろを作るには何が必要でしょうか？原料の紙・印刷のためのインク・貼りつけるのりなどが思いつきます。でも、工場では早く大量に作らなくてないけないので、大型機械とそれを動かす人も必要になります。

ここでは工場で手提げの紙ぶくろができるまでを追いかけてみましょう。



ヘイコー・パックで出た廃紙で再生紙を作り、その紙で作った100%再生紙の紙ぶくろです。

◀機械の全体です。ふくろの形・大きさ・手提げ付きなどで機械を使い分けます。

